

# 桜の植樹や記念碑・震災シンポ

## 20周年記念プラン

シルバーカレッジは、この10月に創立20周年を迎えます。25年1月から記念行事実行委員会が定期的に開かれ、記念植樹や記念碑建立、震災シンポジウム、コンサートなど、さまざまなプランが進められています。委員会の中山マネージャーに3月末現在で具体化している内容を聞きました。

【日程】10月9日(水)～10日(木)で、12日(土)の学園祭につなげ、記念ムードを高めます。

【式典】9日午前、カレッジホールで。20周年を祝って今井鎮雄学長の挨拶・市長の祝辞・新野幸次郎振興協会長の講演「これからのKSC展望」(仮称)。

【震災ボランティアを考えるシンポ】9日午後、カレッジホール。グループ〈わ〉が主催。阪神・淡路から東日本大震災まで、KSCはどういうボラ

ンティアをしてきたか。宮城や外部団体からのゲストも交え、映像や体験報告を通して考えます。会場では、パネル写真展や東北物産も販売します。

【コンサート】10日午後、カレッジホールで。出演は和太鼓松村組の予定。

【記念碑】「再び学んで 他のために」の校是を、高さ0.7m、幅1.7mの御影石に刻んで玄関西斜面に建立します。揮毫は今井学長に交渉中。

【記念植樹】桜の木約20本を記念碑を建てる付近と東側の駐車場に植える。苗木は1本約3万円。サークルや区会、個人の寄付でまかなう予定です。

【20周年記念誌】座談会・エッセー・寄稿などでカレッジ20年を振り返る内容です。約60ページ、3000部発行。

【ジョイラックデー】【学園祭】20周年にふさわしい行事を策定中です。(広報・井口久美子)

## 被災地ボラを考える講演会

被災地のニーズにかなうボランティアとは――神戸市社会福祉協議会主催の「災害ボランティア講演会」が3月17日、中央区のあすてっぷKOBEで開かれ約50人が参加しました。最初にグループ〈わ〉の南形徹理事がビデオ映像を使って2年間にわたる支援活動について報告した後、コープこうべの鮎沢氏からも事例発表がありました。次いで乗原英文氏(JPcom代表)が「宮城の今とこれから」と題して基調講演。ハード面だけでなく、見守り・寄り添い・支援者のためのリフレッシュツアーなどの大切さを訴えました。

パネルディスカッションでは〈わ〉の西田理事長、コープの鮎沢氏、乗原氏が、これからの被災地ボランティアについて体験、提案を交えて意見交換。

〔直接支援する一される〕関係から、自立を促す支援に切り替えて息の長いボランティアを続けよう、と誓い合って2時間の討論を締めくくりました。

## 東北の味楽しむボランティア

「旅を楽しんで東北支援になるなら」と、生環14期のグループ学習「もやい」のメンバー6人が昨秋、観光ボランティアに出かけました。伊丹(空路)―仙台―蔵王―平泉―鳴子温泉―松島―石巻―仙台―伊丹のコースで、9月24日から3泊4日の日程。足はレンタカー2台。酒や温泉に眼のないメンバーなので、まずは温泉めぐりや名物料理探訪、酒蔵見学。鮮度



のいい魚介と地酒を楽しみました。「お土産もどっさり買い込んだので、少しはお役にたったかな」。

4日目に津波被害のひどかった松島、石巻を走り、大川小へ。校舎の骨組みだけが残り、学用品の破片が散乱する荒涼とした風景にメンバーは茫然。「思わず涙があふれ、言葉も出なかった」といいます。途中で仕入れたお花を献花台に供え、悲しみをこらえて合掌。悲惨な廃墟を後にしました。

リーダーの山本一夫さんは「被災地を走って大津波の傷跡を体感し、阪神大震災とは比較にならない被害の大きさを知った。いつになったら普通の生活に戻るのだろう」と話していました。=写真は校舎の残骸が残る大川小で献花(もやい提供)

## サポート募金のご報告

(12月26日～3月31日分・敬称略)

環境未来館4千円、黒田宏(国6)3千円、匿名500円、西隈勝利(ビトプ)5千円、青木千恵子(国14)5500円、小島光子(生15)3千円、遊志の会(食16)1万円